

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)(3ユニット／1階)】

事業所番号	2793100146		
法人名	株式会社ジャパンメディケアネット		
事業所名	グループホームつながり城北		
所在地	大阪市旭区赤川1－3－24		
自己評価作成日	令和8年4月20日	評価結果市町村受理日	令和8年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2793100146-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2－1－8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和8年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居して【楽しむ】をコンセプトにしている為、毎月行事計画に沿ったレクリエーションを実施し、夏・冬には大型レクを実施している。また、毎年4月には全入居者、家族、関係者と日帰りバス旅行を行っており普段とは違う場所で食事を楽しんで頂いている。その他、食材の買い出しや希望があれば職員付き添いの下、外出しておりできるだけストレスなく施設生活が送れるように努めている。
職員に関しては区内の他事業所と連携を図り、職員同士が交流できる場を設けている。
また外部研修を活用し、知識・技術の向上を図り、より良いサービスを提供できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は、本法人が2018年1月に3ユニット(定員27名)で開設し、現在では唯一運用するグループホームである。施設長をはじめ30歳代ながら経験豊富な男性職員が多いこと、散歩や地域行事(祭りでの出店)など戸外での活動が多いこと、ハロウィンやクリスマス会では子どもや親が事業所を訪れたり、中でも好評なものに利用者・家族・職員が毎年観光バスと一緒に日帰り観光する企画などがある。施設長は、利用者一人ひとりがその人らしさを発揮し、人や場とのつながりを入居後も継続でき、皆が楽しく過ごせることを目指しており、家族のアンケート回答からもその実践が窺える。利用者の様子は、LINE・お便りやインスタグラムで発信し、家族は利用者の様子が写真や映像等で伝えられ、好評かつ安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、3ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念 「入居者・家族・地域とのつながりを大切に」共有し見える所に掲示している。	基本理念「慣れ親しんだ場所で、ひとりひとりが、その人らしさを発揮できるように支援します。豊かな人間関係を保ち支え暮らしていけるよう、『入居者とのつながり、家族とのつながり、地域とのつながり』を大切にします。」をホームページ・パンフレットや事業計画に掲載し、広く社会への発信と共に事業所全体で共有のうえ理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェや祭り、散歩などに地域との連携をしている。	地域の祭りでのゲーム屋台の出店、つながり(認知症)カフェ・ハロウィンやクリスマス会での近隣住民受入れ、公園清掃や散歩時の近隣住民との挨拶などを通し利用者・職員が地域とのつながりを図っている。また、定期的に利用者・家族・職員が観光バスで一緒に出かけ、現地で他グループホーム(2事業所)と合同の会食・演芸会や観光を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの開催。訪問された方の相談に対応		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	後見人、市の担当者と連絡、報告しサービスの向上を目指している。	運営推進介護は町会長(兼民生委員)・地域包括支援センター職員、他グループホーム管理者や利用者家族等の参加を得て平日に近くの集会所で年6回開催している。事業所から施設長・職員が出席し、入居者の状況、活動(行事・研修・委員会・会議等)、事故・苦情等の発生、今後の予定などを報告し、参加者からの評価・意見を聞き情報交換をしているが、参加者の発言が少ないのが現状である。	参加者からの評価・意見を積極的に引き出す工夫並びに議事録を家族等にも郵送することを望む。家族等へ議事録を送付することで、LINE・Instagramや毎月の便り等の情報に加え事業所の活動状況をより良く知って貰い、事業所への一層の理解や協力を得るきっかけとなることが期待できる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で意見の聞き取りや施設状況の報告を行っている。また、頂いた意見は全体会議で話し合っている。	区役所窓口への報告・連絡・相談のほか、毎月の介護保険事業者連絡会に参加し、各種有益情報等を入手のうえ事業所の運営に活かしている。地域包括支援センターとは、運営推進会議等を通じ連絡を密にしている。なお、利用者の約半数が生活保護受給者であることから年2回ケースワーカーの来所がある。また、地域の事業者間での交換研修があり、相互に職員の出入りが行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一回委員会を開催し 身体拘束廃止の取り組みをしている	「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、委員会を毎月開催し、議事録からは拘束の有無や取組状況の確認が窺われる。職員研修は年2回のほか接遇研修も実施している。職員は親しみを込め愛称で呼ばれたいと望んでいるが、利用者には苗字に「さん付け」で呼んでいる。利用者の安全確保のため3居室にセンサーを設置し、フロア出口と玄関を施錠しているが、利用者は職員同行で各フロアの往来や散歩に出かけられ閉塞感は見られない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一回委員会を開催し 虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学び、必要であれば話し合い 支援に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面の不安や疑問点があれば 都度説明できるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置 面会時に話を聞くように努めている。	利用者の意見・要望等は職員等が日々の寄り添いの中で傾聴し、家族等の意見・要望は面会時や運営推進会議等で拝聴している。家族から意見・要望等があれば、都度記録のうえ全体会議や委員会において職員等で共有のうえ必要に応じ適切な対応に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回フロア会議、職員全体会議を開催。その他、毎月法人代表者にも参加頂くリーダー会議を開催している	施設長は、毎月の会議(リーダー会議・全体会議・フロア会議)・各委員会や個別面談を通し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。リーダー会議には法人代表も出席しており、相互のコミュニケーションは良好と考えられ、会議での意見や提案は必要に応じ事業所の運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談等で意見を聞き取り向上心が上がるよう反映に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所内、所外での研修とチーム全員がサポート体制を取り、スキルの底上げを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭区の地域密着型連絡会に参加。外部研修でも情報交換を行い向上に向け取り組んでいる		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見や意向を確認し、チーム内で共有。関係性の構築に取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や要望も聞き取りチーム内で共有している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所時に聞き取りを行い得た情報を基に対応を検討、実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを尊重し、安心して暮らせるよう関係性の構築に取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に報告、連絡、相談を心がけ来所時やLINEを用いて関係構築に取り組んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族、知人様から聞き取った情報を基につながりを持続できるよう努めている	面会には家族等のほか、知人・かつてのご近所さんや店のかつての常連客の来所もあり、事業所でも歓迎し支援している。家族が利用者を連れ出し外泊・法事・買い物や外食に出かけるケースもあり支援している。利用者の記憶や町の様子の変化などで馴染みの人や場が少なくなる一方、事業所の他ユニットの利用者との新たな馴染みが出来、それぞれのユニットを往来するケースも見られる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が懸け橋となり入居者間での関係構築に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談やフォローができるよう、ご家族様に声掛けを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で意見の聞き取りや、行動を観察し予測しながら本人の意向を模索している	入居希望者には、見学時に副施設長が面談したり、必要に応じ自宅等を訪問して本人や家族の思いや意向・生活歴を把握して受け入れを検討している。入居後は、職員が寄り添い利用者の思いや意向をより深く把握し記録のうえ、職員間で共有し利用者一人ひとりがその人らしさが発揮できるよう種々工夫したケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別ケアシートを用いて意見の聞き取り、情報共有を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過や各種記録表を用いて現状の把握を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見や要望をカンファレンス、ミーティングでケアマネージャーに報告。反映してもらっている	入居後は介護計画作成担当が中心となり、カンファレンスにて最新の利用者状況を把握し、3か月毎のモニタリングやサービス担当者会議を経て計画を見直している。介護計画の見直しには、家族の要望や職員の観察と記録、医療関係者の意見やアイデア等を反映し計画書の見直しを行い、本人または家族等の同意を得ている。なお、利用者に急変があれば、都度介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日熱計表に記録し、様子の変化に築ける様努めている。また気になったことや本人の発言を支援経過に記録し、共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズを聞き取りできる範囲で実現に向け取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フォーマルなところでは運動の場、祭り絵の参加。インフォーマルでは公共交通機関を利用し、外出の支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各協力医療機関から月2回以上往診あり医療面でのサポートを行っている。また週1回の訪問看護でも情報共有を行い支援している	入居時に本人や家族の納得・同意を得て、全利用者が協力医療機関の医師をかかりつけ医として内科月2回と歯科は週1回の訪問診療を受けている。なお、従来の歯科医の訪問診療を継続している利用者が1名いる。その他の専門科については必要時、家族または事業所職員が同行通院をしている。週1回の訪問看護師とは利用者の健康管理・体調の変化を共有し連携している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態に変化があれば都度共有、対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関とは密に情報共有を行い関係構築に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族、医師が話し合いができる場を設け、意見の反映に取り組んでいる。また、相談等については職員が聞き取りを行い、医師に情報共有している	入居時に看取り介護に係る指針を説明し、同意書を交わしている。重度化した場合は、本人や家族・医師・看護師と話し合い、今後の方針の統一を図り、再度同意書を交わしている。家族と医師が話し合い緩和ケアを行い、好きな歌やテレビを終日つけ、清拭で清潔保持に努めるなど、本人や家族の思いに添った最期をむかえた利用者がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時についての研修を実施。実践力向上に向け取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時研修やシミュレーションを実施している	年2回の法定訓練は、本年1月(夜間想定を含む)と4月に実施している。BCP(事業継続計画)の自然災害訓練は、昨年11月と本年2月に行っている。災害委員会では水害に対するセルフチェックシートを使用し意識を高めている。有事の際、駆けつけ可能な職員は6～7名いる。水・食料品は、およそ5日分を備蓄している。BCPにもとづく備蓄品リストの見直しも進め、地域との防災イベントなどを企画し協力体制を築くことを考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナー、プライバシー保護、法令遵守の研修を行いその人自身を尊重したケアを心がけている	本項目に係わる研修は、「接遇マナー」が年1回、「人権とプライバシー」に関しては年2回実施している。研修後は大声で話さない・自分がされて嫌なことはしない・羞恥心には上手に対応する・少し考えてから行動するなどの感想文を提出しており、職員それぞれが利用者の尊厳を損なわないケアに努めていることが窺われる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定の支援を全職員で理解し、支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体で支援を行い、職員主体にならない様努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の機会が多く、入居・職員共におしゃれを楽しみながら楽しんでいる			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本は湯煎になるが、毎月調理が必要な食事を企画し、全員で調理と食事を楽しんでいる	業者による献立・調理された食材を湯煎し、炊飯・みそ汁は各フロアで作っている。月1回のおやつレクレーション・誕生日会ケーキ・季節食や週1回業者による「お楽しみ食」の特別メニューから選んだ食事なども提供している。毎月、利用者の嗜好調査をもとに利用者・職員でメニューを考案し、買い物や皮むき・食材を切るなど調理を一緒に行い、食事を楽しんでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患等を把握し、共有行い日々の健康管理に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1の訪問歯科診療で診察。助言を頂き、毎日の口腔ケアに努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者のニーズに合わせ無理のない範囲で自立に向けた取り組みをしている	布パンツ4名・おむつ1名・リハビリパンツ19名である。介助なしでのトイレでの排泄が12名で他の12名は日中はトイレ誘導し、夜間は1時間毎の巡視で安眠を妨げない支援をしている。入居時は車イスであったが、職員の熱心なサポートでの歩行訓練などにより立位がとれ自分で排泄でき、現在はバギーでの歩行が可能になった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握、便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者のタイミングで入浴できる体制を取っている	週2回午前が基本となっているが、入浴を拒む利用者には担当を考慮したり日時を変えるなど柔軟に対応している。シャワー浴は2名のみで、他の利用者は全員が湯舟に浸かっている。菖蒲湯やゆず湯、入浴剤の使用、好みの音楽を流すなど寛いだ気分で入浴を楽しめるよう支援している。処方により入浴後、保湿クリームを塗布している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけレクリエーションや活動の参加を促し、夜は眠れるよう工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を共有。事故防止の為、必ず2人でチェックしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のニーズにも対応できるようにレクリエーションに取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望があれば外出、近隣の散歩を実施。 他、レクリエーションでの外出も多くできるだけ外に行けるよう支援している	日常的には近くの公園への散歩やスーパーへの買い物などに出かけている。4月には近隣2施設と合同で利用者・家族・医師・看護師・職員総勢113名によるバス3台で日帰りバス旅行を実施している。東大阪市役所展望ルームからの夜景見学ドライブを計画している。3月には「お花見・散歩週間」を実施しており、様々な外出の機会を作りだすよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い出しや希望時に付き添いの下、使う機会を設けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙に対応できるよう努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理や飾り付けなどの環境作りを行い居心地のいい空間づくりに励んでいる	居間兼食堂他共用空間はいずれも清潔感があり整理整頓されている。外光が入るようカーテンを開けるなど環境設定に配慮している。食堂の壁に手作りの一本の木を飾り、木につける折々の花や紅葉などを利用者と一緒に手作りし変化をつけながら季節を感じる工夫をしている。壁面には職員のカメラマンによる行事の写真が所狭しと貼られ利用者との話題作りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人に合った環境設定を行い住みやすい空間作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などを配置し心地よく過ごせる空間作りを意識している	防災カーテン・エアコン・ベッド・タンス・洗面台が既設されており、利用者は仏壇・家族の写真・お気に入りのスターのフィギュアやポスター・パソコン・携帯電話など馴染みの物を持ち込み、その人らしい居心地の良い居室となっている。昔のレコードプレイヤーとレコードを持参し、他の利用者を部屋に招き一緒に音楽を楽しむ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具を活用し、自立した生活が送れるよう努めている		